

川崎市みぞのくち保育園 子育て支援センター “たまご” 紹介！

川崎市みぞのくち保育園・地域子育て支援センター「たまご」は、

公設民営第一号として平成14年4月から運営を始めました。

地域子育て支援センター「たまご」の環境

川崎で初めて小学校の敷地内に1階が保育園と地域子育て支援センター、2階に幼児教育センターを合築した施設です。

学童のための“わくわくプラザ”も敷地内にあり、また隣接して高津図書館もあります。

「たまご」を利用する子育て中の親にとって、日常的に保育園の子どもや小学生の状況が見られ、子どもの育ちを長いスパンでとらえることができる良い環境にあります。

また、幼児教育センターは広いオープンスペースや大小会議室、プレイルームが整備されていますので、施設を利用させて頂くこともできます。更に、学校、幼児教育センター、保育園、地域子育て支援センターの会議も定例化し、幼・保・小の連携も図られています。

地域子育て支援センターの目的や役割

少子高齢化や核家族化の進行、女性の社会進出、更に住環境や地域のつながりの減少や希薄により、子育てがしにくい状況にあり、子どもへの接し方、躰や子育てに自信が持てない、子育てが孤独すぎる、遊び場や話す人もいないことから育児不安や虐待などの問題も生じてきました。そこで、地域における子育てを支援し、子育てに喜びや楽しみを感じられるように支援するのが目的です。

活動は、子育て家庭の相談・助言や情報提供、子育てサークルや子育てボランティアの育成等、関係機関との連携により、地域の子育て支援の拠点として機能させていく役割を担っています。

毎日、多くの子育て中の親子が「屋根のある公園」のように気軽に利用しています。

友だちと一緒に、あるいは仲間を求めて子どもと共に安心して遊びながらホッとした時間を過ごしたり親同士の交流ができ、親も子ども生き生き楽しく育ち合う姿が見られます。

「たまご」を拠点としてママたちもサークルの立ち上げやボランティア活動にと積極的に社会参加し、支援する側に育っています。地域の子育て支援の広がりが着実に培われているようです。

主な相談内容

【0～1才前半】

生活リズムについて

昼と夜の生活が逆転・夜泣き・離乳食がうまくすすまない・卒乳の時期・ミルクを飲まない・ハイハイをしない・歩行が遅い・言葉が出ない・人見知り・一人で遊ばない・物の取り合い・親の言うとおりにならない・一時保育の利用

【1才後半～2才前半】

歯みがきの仕方・人見知り・かんしゃく・物の取り合い・物を投げる・たたく・遊べない・遊ばせ方が分からない・歩行が遅い・言葉が出ない・トイレトレーニング・しつけ・父親の協力が無い・転居してきて遊ぶところが分からない・病気の時の病院の選び方・一時預かりについて・一人で言うことをきかない・仕事をしたい・職場復帰したいが預かってくれるところが分からない・子どもを虐待しそうになる

【2才後半～3才児】

友達と仲良く遊べない・言葉より手が出ると出る・気に入らないとわめく・言葉の遅れ・戸外での遊び場・しつけ・トイレトレーニング・自分から食べようとしない・箸の使わせ方・幼稚園や保育園の選び方